## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	新常態における身体活動・スポーツの促進 : オリンピックレガシー・SDGsの達成に向けて					
Sub Title	Promotion of physical activity and sports in the new normal : to achieve the Olympic legacy and SDGs					
Author	小熊, 祐子(Oguma, Yuko)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2021					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)					
JaLC DOI						
Abstract	スポーツ・身体活動によるSDGsへの貢献に向け、月1回程度のミーティングを実施した。塾内の 横断的リソースを活用し、各プロジェクトを遂行するために、競技スポーツから健康スポーツ・ 運動、身体活動(生活活動)等多岐にわたる情報交換を行うことができた。 8月には「慶寛スポーツ50Gsシンボジウム2020)をオンラインJ開催し、約380人が視聴した。蟹 江、神武、小熊、石田が講演するとともに、石手がまとめる東京2020 オリンビック・パラリンビック実間サポート「KEIO2020 プジェクト」の学生がオリンビック レガシーCついて、健康マネジメント研究科の学生が藤沢での取り組みと「身体活動に関する世界 行動計画2018-2030(GAPPA)」、SDGS について動画で紹介した。GAPPA についてのWHO西太平洋事務局のHamalainen 氏の講演は日本語キャプション付オンデマンド配 信した。新常態での身体活動のあり方、スポーツと SDGs の親和性について、ネットを通じて広 く発信する貴重な機会となった。11月には「スポーツにおけるシステムズアプローチ」をテーマ に国立スポーツ料学センターク木留靴センター長にご講演いただいた。 今後、塾内外問わず多様なステークホルダーと共同していくために、そのプラットフォームとな るホームページ(https://sportsadgs.keio.acjp/)やロゴを作成するなど広報活動にもましんた。 大学と藤沢市との協定のもと行っている身体活動促進事業は、藤沢市健康増進設と定期的に意見 交換を行い継続、研究チームでも内外の人を集め12月にワークショップを行い構想をまとめた っコレナ禍でのオンライン運動プログラム実施にも複数間与した。3月には、蟹江研究会主催のオ リバラSDG 5 ワークショップが行われた。PF価指標と今後の共同調査課題の検討を行った。関連 のテーマで外部より依頼があり講演等行う機会を得た。 活動の基盤が整う中、2021年度はより具体な連携プロジェクトを実施する。 Meetings were held about once a month to contribute to the SDGs through sports and physical activities. We were able to exchange information on a wide range of topics, including competitive sports, health sports SDG SS mynosium 2020 <sup>°</sup> was held online and attended by approximately 380 people. In addition to lectures by Kanie, Kothake, Oguma, and Ishida, students from the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games UK Support "KEIO2020 Project" organized by Ishide talked about the Olympic legacy, while those from the Graduate School of Health Management talked about the Olympic relations activities uch and outside the university, we also for Keio Sports SDGs Symposium 2020 <sup>°</sup> was held online and attended by approximately 380 people. In addition state stateholders both inside and outside the university, we also for Keio Sports SDGs Symposium 2020 <sup>°</sup> was held online and attended by approximately 380 people. In addition settives by Kanie, Kothake, Oguma, and Ishida, students from the Tokyo 2020 Olympic legacy, while those from the Graduate School of Health Management talked about the Olympic legacy while those stateholders both inside and outside the university, an					
	Desserve Desser					
Genre	Research Paper					
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000010-20200001					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって

## 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2020 年度 学事振興資金(部門横断型共同研究)研究成果実績報告書

	所属	スポーツ医学研究センター	職名	准教授			
研究代表者	氏名	小熊 祐子	氏名(英語)	Yuko Oguma	- 補助額	1,000	ŦP
			究課題(日本語				
新常態における	る身体活動・スァ	ポーツの促進~オリンピックレナ	ヴシー・SDGs の	)達成に向けて			
		研	f究課題(英訴	)			
<sup>&gt;</sup> romotion of P	hysical Activity	v and Sports in the New Norma	al: To Achieve t	he Olympic Legacy and SDG	S		
氏	名 Name		研究組織	啦.友			
 小熊祐子 (Yuk				職名 Affiliation, department, a 建康マネジメント研究科・准教:			
石田浩之(Hird	-			建康マネジメント研究科・教授			
神武直彦(Nac		大学院システムデザイ	インマネジメント				
蟹江憲史(Nor		大学院政策メディア研					
佐藤和毅(Kaz		医学部スポーツ医学	総合センター・・	センター長			
石手靖(Yasus	hi Ishide)	│体育研究所•所長					
		<u>1.</u> 쥯 DGs への貢献に向け、月 1 回	开究成果実績の				
いて、健康マネ 動電で紹介した 常能での身体 ッにおけるシス 今後、塾内 sportssdgs.keio 大外の人を集め は、蟹より依頼 外部より依頼の	ジメント研究科 =。GAPPA につ 舌動のあり方、 テムズアプロー 外問 かac,jp/)やロゴ をの協定のもと め12月にワー く ま を の ま り た の で の し の た い つ い か い つ に か い つ い や い つ に の た の の の つ の の の の の に の の の の し つ の い つ い や の い つ に の の の に の の の に の の い た の に の の い つ に の い の に の の し 、 の い の に の の い の に の い の に の い の い に の い の に の の い の に の の い の い の い の い の い の い の い い い い い い い い い い い い い	年度はより具体的な連携プロジ	「身体活動に関 の Hamalainen ついて、ネットを 科学センター久ス していくため」 Eカした。 に、コロナ禍でで かれた。評価指 ジェクトを実施す	する世界行動計画 2018-203 氏の講演は日本語キャプショ 通じて広く発信する貴重な機 木留毅センター長にご講演いた に、そのプラットフォームと 康増進課と定期的に意見交換 のオンライン運動プログラム写 漂と今後の共同調査課題の格	30(GAPPA)」、S ン付オンデマン 会となった。11 ただいた。 なるホームペ 奥を行い継続、領 ミ施にも複数関	5DGs につ ド配信した 月には『ス ージ ( htt 肝究チー <i>L</i> 与した。3	いた ニポロ ps:// もに
		2.研究) e a month to contribute to th	成果実績の概要				
information on activities), to u In August, "K by Kanie, Koht Project" organ about their eff Hamalainen of director of the For future co activities such As for the pr exchange opini people from ins of several onlin Olympic and P topics.	a wide range tilize cross-sec take, Oguma, a ized by Ishide forts in Fujisaw the WHO Weste National Cente ollaborations w as creating a w omotion of phy ons with the H side and outside the exercise pro- garalympic game	of topics, including competition of topics, including competition of topics, including competition of the sources within the un- Cas Symposium 2020" was held and Ishida, students from the talked about the Olympic lega- va and "Global Action Plan of ern Pacific Office was delivered r for Sports Sciences, gave a l ith diverse stakeholders both rebsite to serve as a platform a sical activity under the agreen lealth Promotion Division of F e the university to summarize grams considering the COVID- es was held by the Kanie Res- ctivities in place, we will impler	ive sports, hea iversity and ca d online and att e Tokyo 2020 acy, while thos on Physical Ac d on demand w lecture on "Sys i inside and ou and the logo fo ment between fujisawa City, a the concept. T -19 pandemic s search Group	alth sports and exercise, an rry out each project. eended by approximately 380 Olympic and Paralympic Ga e from the Graduate School tivity 2018–30 (GAPPA)." T ith Japanese subtitles. In Nov stems Approach in Sports." utside the university, we also r Keio Sports SDGs. the university and Fujisawa C and the research team held a The research team was also i bituation. In March, a worksho to discuss evaluation indicat	d physical activ people. In addit mes UK Suppo of Health Mana he lecture on ( vember, Dr. Take o focused on p Dity, we continu a workshop in I nvolved in the i p on SDGs in tl ors and future	vities (life ion to lec rt "KEIO gement t GAPPA b eshi Kukic ublic rela ed to reg December mplement ne Tokyo	estyle tures 2020 alked y Dr. lome, tions ularly with ation 2020
			エックマション 目目 一	∽ス発表			
		3.本硕	所究課題に関す	る儿衣	1		
発表者 (著者・	皆氏名 講演者)	3.本 発表課題名 (著書名・演題)			学術誌3 (著書発行年)	送行年月 3.講演4	王日)

小熊祐子	【オリンピック・レガシーと身体活動 促進】Global Action Plan on Physical Activity 2018-2030 につ いて SDGs、オリンピック・レガシー とともに考える		2020.5
小熊祐子、齋藤義信	身体活動のすすめ ~今求められ るシステムズアプローチ、歯科との つながりを考える~	日本歯科医師会雑誌	2020.7
信, 石田浩之 	大学女子アスリートにおけるストレ ス反応, コーピングおよび生活習慣 と月経前症候群との関連性 -構造 方程式モデリングによる検討-		2021.2
天笠志保,松下宗洋,田島 敬之,香村恵介,中田由夫, 小熊祐子,井上茂,岡浩一朗	「身体活動を支える 8 つの投資」日 本語版の紹介	運動疫学研究	2021.(早期公開)
	2 0 2 0 横 浜 ス ポ ー ツ 学 術 会 議 公 開 講 座 の 開 催 報 告 と 運 動 疫 学の 普 及・促 進 の 視 座 から見 た 今 後 の 展 望	運動疫学研究	2021.(早期公開)
	高齢者グループ運動実施コミュニ ティにおける GAPPA の活用と SDGs への貢献		2020.10
小熊祐子(座長)	Sustainable physical activity/ sports promotion in the new normal with and after COVID-19		2020.9
神武直彦、小熊祐子	スポーツパフォーマンス向上のた めのシステムデザイン〜トップチー ムから、大学体育会、学校体育、 地域スポーツまで 〜		2020.9
小熊祐子、齋藤義信	シンポジウム身体活動促進と SDGs - 多分野連携で進める研究 と社会実装- 身体活動に関する 世界行動計画 2018-2030 (GAPPA)の紹介と日本での展開 について	第 75 回体力医学会大会	2020.9 (誌上発表)
伊藤智也ら	慶應スポーツ SDGs ~新常態にお ける持続可能なスポーツ・身体活 動~	慶應 SFC Open Research Forum	2021.3
神武直彦、小熊祐子	未病サミット特設サイト 特別座談 会「ME-BYO とスポーツで解決する 地域課題と SDGs の達成」	神奈川県未病サミット	2021.2-3
小熊祐子	スポーツ x SDG でウェルネス経営 ~WHO「身体活動に関する世界行 動計画」の社会実装に向けて~		2021.3.18